



ぶらり相生第2号  
平成29年6月

## 「相生は、アイオイ？」

相高が所在する「相生」について、ぶらり旅をしてみます。相生という地名は、兵庫県だけでも、明石市相生町、三田市相生町、高砂市相生町、神戸市中央区相生町、西宮市相生町、姫路市相生町に存在します。

一般的に「相生」は、①一つの根本から二つの幹が分かれ出ること。

②相生挿し（結婚式の飾り物）③相

老い（夫婦そろって長生きすること）に同じ④いっしょに生まれ育つことの意味があります。どうやら仲が良いとか、長寿という意味があるようです。

相生市の相生には、諸説あります。a 那波浦大浦だったことから、「オオ」と呼ばれていました。それが1186(文治2)年、那波の大島山城の城主海老名盛重が相模に生まれたことから「相生」の文字をつけ、大島城と大浦の「大」の音をとってオオと読ませたという説。

b 那波浦大浦が大浦、それから大（オー）と下称を略したとされます。そのオーに相（あう）生（おふ）の佳字を当てたという説。

このように、オーと呼ばれていました。間違いも生じるので、1939(昭和14)年4月アイオイに改められたといわれています。

駅名について、お話します。1890(明治23)年、山陽鉄道竜野駅—有年駅間の開通と同時に、那波駅として開業します。1942(昭和17)年相生駅に改称されます。音声の間違い変更と同時期です。

また、相生湾は、明治初期まで那波湾と呼ばれ、その入り江を那波の入り江といわれていました。ナは土地の意。ワは輪で曲がった地のことといわれます。あるいは『万葉集』でも魚をいう古語「ナ」の場なので、「魚場」であったことが想像できます。ちなみに那波野は1951(昭和26)年7月編入されるまでは、揖保郡揖保川町大字那波野でした。

地名一つからさまざまなことがみえてきますね。

